

Job Director/BOM5.0 アーカイブサーバー連携キット

セイ・テクノロジーズ株式会社

# 目次

1. 概要 .....	1
2. 連携キットの機能 .....	1
2.1. アーカイブデータベースのバックアップ .....	1
2.2. インデックスの再構築 .....	1
2.3. データ削除 .....	2
2.4. レポート出力 .....	2
3. 連携キットのインストール .....	3
3.1. 環境条件 .....	3
3.2. JNW のインポート .....	4
3.3. 連携キット用バッチファイルのコピーとバッチファイル内容変更 .....	6
3.4. 連携キット用環境変数の設定 .....	11
4. 連携キットの使用方法 .....	14
4.1. アーカイブデータベースのバックアップ .....	14
4.2. インデックスの再構築 .....	17
4.3. データ削除 .....	20
4.4. レポート出力 .....	24
5. Job Director BOM6.0 アーカイブデータベース連携キ ットとの共存時の注意事項 .....	32

## 1. 概要

本キットでは、“BOM 5.0 アーカイブサーバー管理メニュー”のサーバーメンテナンスの機能(データベースのバックアップ、インデックスの再構築)を自動化することができます。

BOM for Windows Ver.5.0(以下 BOM)と BOM サーバー診断レポートオプション Ver.5.0(以下レポートオプション)を使用すると BOM による監視データのレポート化が可能です。この場合、レポート出力するためには手動で操作する必要があります。本キットを使用し Job Director と連携することにより、レポート作成のジョブ実行時刻を設定し、自動でレポート出力を行う事ができます。

本書は Job Director と BOM を連携して、BOM のいくつかの機能を自動化するキット(以下連携キット)について説明いたします。

## 2. 連携キットの機能

### 2.1. アーカイブデータベースのバックアップ

“アーカイブデータベースのバックアップ”は、“BOM 5.0 アーカイブサーバー管理メニュー”の“データベースのバックアップ”の機能と同じです。“BOM 5.0 アーカイブサーバー管理メニュー”では、“B”コマンドを手動入力するとバックアップを実行します。Job Director を使用すると、バックアップの開始時刻を設定できます。よって、他のバッチ処理が稼働していない時間帯等にバックアップを自動実行することが可能です。アーカイブデータベースのバックアップ先ファイルはシステム変数で指定したファイルになります。

### 2.2. インデックスの再構築

“インデックスの再構築”は“BOM 5.0 アーカイブサーバー管理メニュー”の“インデックスの再構築”の機能と同じです。“BOM 5.0 アーカイブサーバー管理メニュー”では、“E”コマンドを手動入力するとインデックスの再構築を実行します。Job Director を使用すると、インデックスの再構築開始時刻を決める事ができます。よって、他のバッチ処理が稼働していない時間帯等にインデックスの再構築を自動実行することが可能です。

## 2.3. データ削除

“データ削除”は“BOM 5.0 アーカイブマネージャ”の[BOM アーカイブ]-[プロパティ]-「自動削除」タブ-“削除対象外のレコード数”設定の日数指定と同じです。件数指定はできません。また日数指定は“監視ログ”、“検出したイベントログ”、“ヒストリ”に共通で個別に設定できません。Job Director を使用すると、データ削除開始時刻を決める事ができます。よって、他のバッチ処理が稼働していない時間帯等に“データ削除”を自動実行することが可能です。

※Job Director を利用する本機能は SQL Server Express Edition 以外のアーカイブサーバーには必要ありません。“データ削除”の機能はもともアーカイブサーバーの機能に含まれています。しかし、SQL Server Express Edition のアーカイブサーバーでは機能制限になっています。Job Director を使用して補完するのが本機能です。

## 2.4. レポート出力

BOM のレポートオプションは、アーカイブサーバーの蓄積データを分析し、コンピューターの状態をチャート図やグラフで表示します。Job Director とレポートオプションを利用すれば、レポート出力時刻およびレポート出力期間を設定することができます。たとえば、毎月、月初めに前月 1 ヶ月のレポート出力を自動実行することが可能です。

また、出力形式は MHTML 形式、Excel 形式等を選択できます。

## 3. 連携キットのインストール

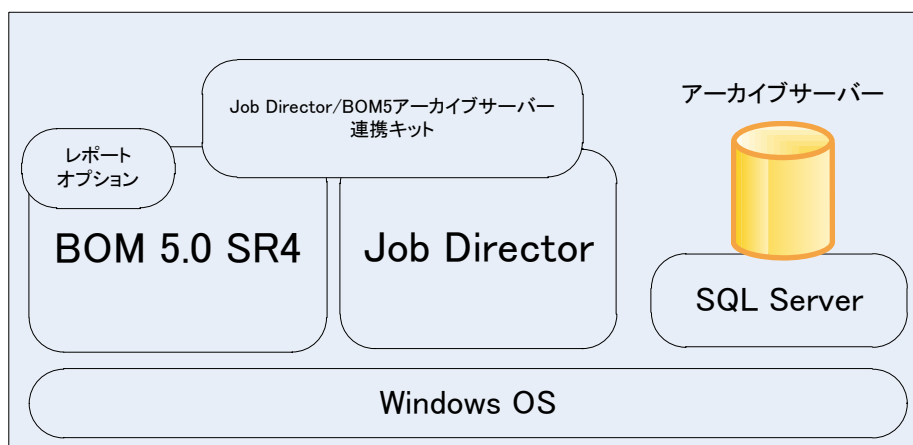
### 3.1. 環境条件

BOM 5.0 連携キットは、以下の条件を満たしている場合にご利用頂けます。

- Job Director R12.10 がインストールされ、正常に動作していること。
- SQL Server がインストールされ、BOM 5.0SR4 用の BOM アrchiveサーバーが稼動していること。
- BOM サーバー診断レポートオプション Ver.5.0 がインストールされ、正常に動作していること。

動作環境の詳細については以下にご案内します各ドキュメントをご参照ください。

ドキュメント名	確認内容
同梱してある"Readme.txt"	【動作検証済みバージョン】
Job Director メディア内に同梱してありますリリースメモ	【2.1. 対応 OS 一覧】
サーバー診断レポートオプション Ver.5.0 ユーザーズマニュアル	【2.1 動作環境】

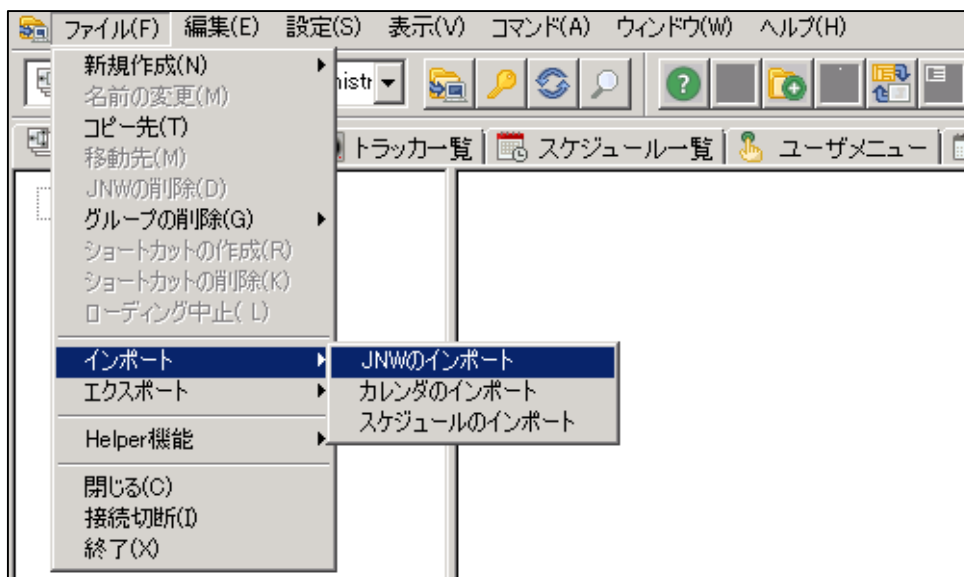


連携キットの構成例

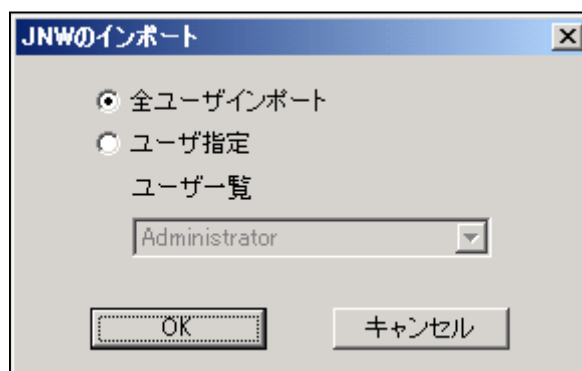
### 3.2. JNW のインポート

連携キットに同梱されている“JD5”フォルダーを Job Director で“インポート”します。

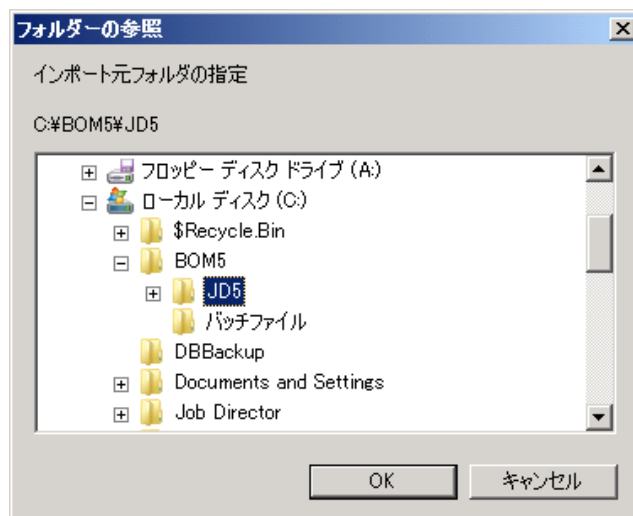
1. Job Director クライアント(CL/Win)を起動します。
2. [ファイル]-[インポート]-[JNW のインポート]を選択します。



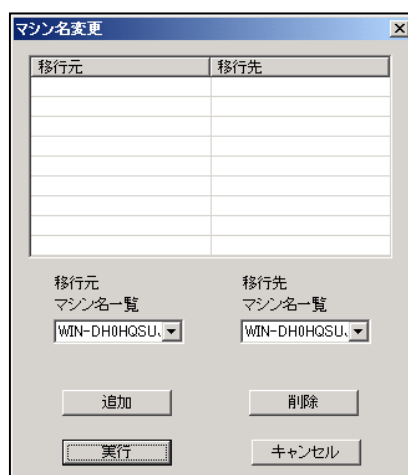
3. インポート対象のユーザー選択画面が表示されますので、[全ユーザインポート]を選択後、[OK]をクリックします。



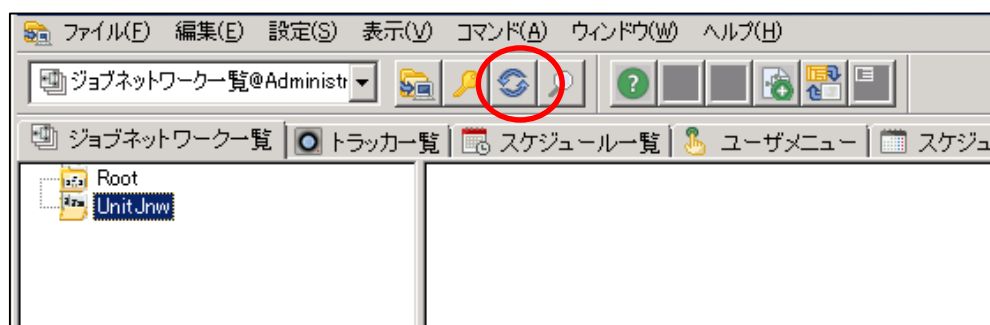
4. 本ドキュメントと同じ階層に展開されている“JD5”フォルダーを選択し[OK]をクリックします。



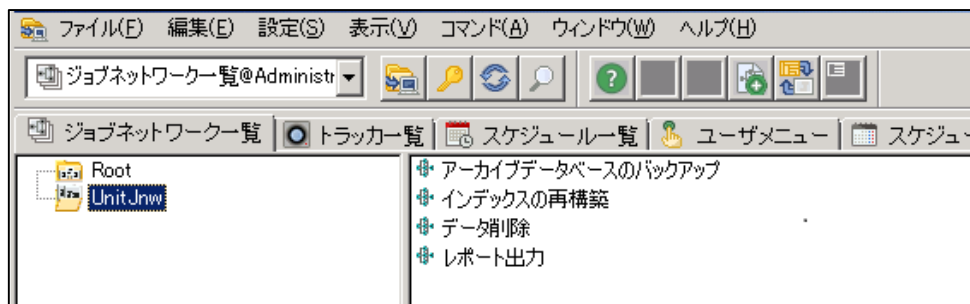
5. マシン名変更の画面が表示されます。内容を変更せず[実行]をクリックしてください。



6. インポート後に「ジョブネットワーク一覧」タブの左側のペインの“Unit Jnw”をクリックし、[最新情報表示]アイコンをクリックします。



7. インポートされ“Uni-Jnw”に含まれる 4 個のジョブネットワークが右側ペインに表示されます。



### 3.3. 連携キット用 バッチファイルのコピーとバッチファイル内容変更

#### A) 連携キットに必要なバッチファイルのコピー

1. 連携キットに同梱されているフォルダー「バッチファイル」に含まれるファイルをすべて、次のフォルダーにコピーします。

例：“C:\Program Files\SAY Technologies\BOM5DB”(x86 の場合)

例：“C:\Program Files (x86)\SAY Technologies\BOM5DB”(x64 の場合)

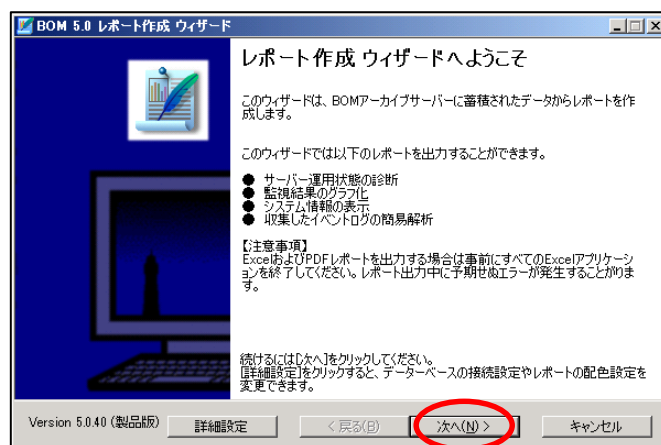
既定では、上記の例のようになりますが、もし BOM のインストールフォルダーを変更された場合には、“BOM5DB”フォルダーにコピーしてください。

#### B) ファイル内容の変更

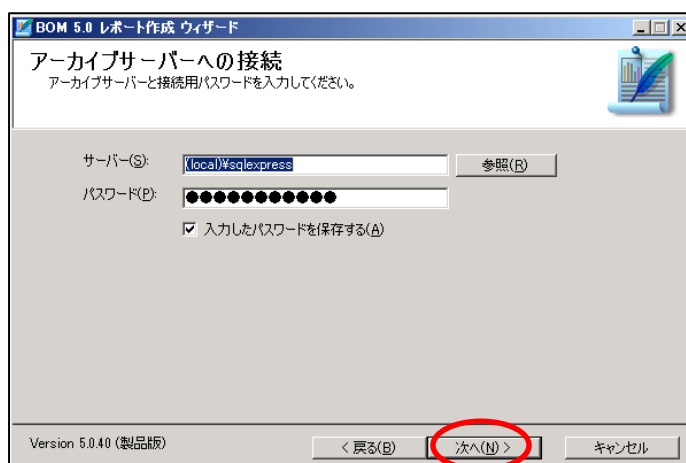
レポート出力を行うには、インスタンスの指定が必要になります。インスタンスの指定にはレポートオプションに付属している“BOM 5.0 レポート作成 ウィザード”を使用してレポート出力に必要なコマンドを作成し、JNW で実行するバッチファイルに変更する内容を反映します。



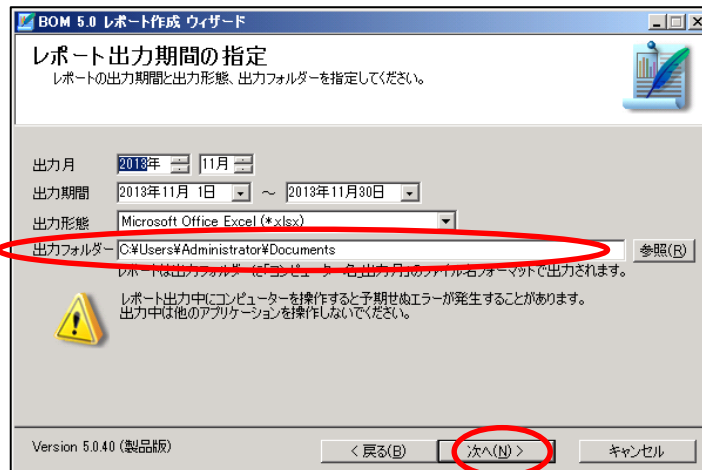
1. [スタート]-[すべてのプログラム]-[BOM]-[BOM for Windows 5.0]-[BOM 5.0 レポート作成 ウィザード]をクリックし、BOM 5.0 レポート作成 ウィザードを起動します。続いて、[次へ]をクリックします。



2. “アーカイブサーバーへの接続”画面が表示されますので、レポート作成するインスタンスのデータ蓄積されたアーカイブサーバーを指定し、パスワードを入力して[次へ]をクリックします。

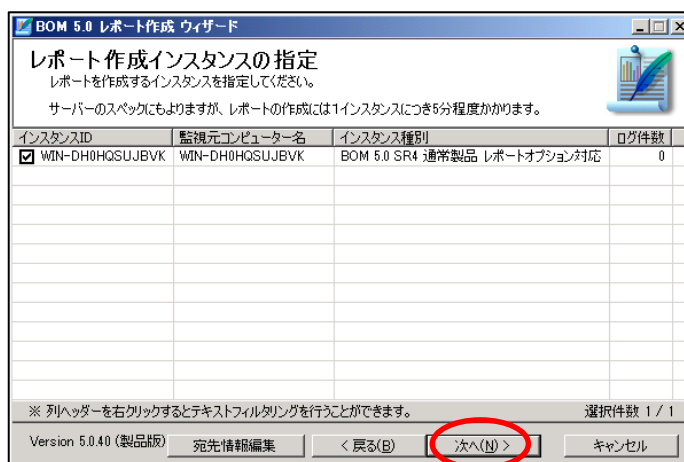


3. “レポート出力期間の指定画面”が表示されますので、レポート出力期間、出力フォルダーを指定して、[次へ]をクリックします。出力フォルダーは図の例では、Administrator のマイドキュメントになっています。お客様のご都合に合わせて任意のフォルダーへ変更下さい。



Version 5.0.40 (製品版)

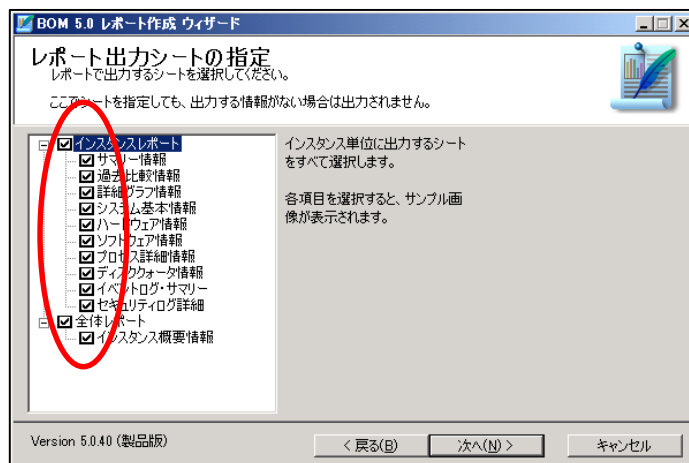
4. “レポート作成インスタンスの指定”画面が表示されます。出力対象のインスタンス ID の先頭にあるチェックボックスにチェックをし、[次へ]をクリックします。



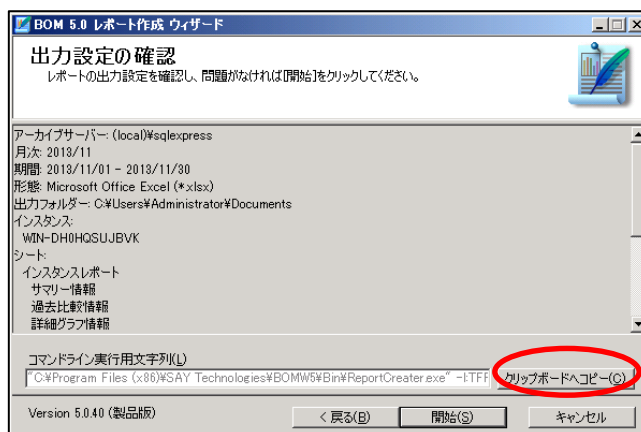
※ 列ヘッダーを右クリックするとテキストフィルタリングを行うことができます。 選択件数 1 / 1

Version 5.0.40 (製品版) 宛先情報編集

5. “レポート出力シートの指定”画面が表示されますので、出力するシートを指定して[次へ]をクリックします。

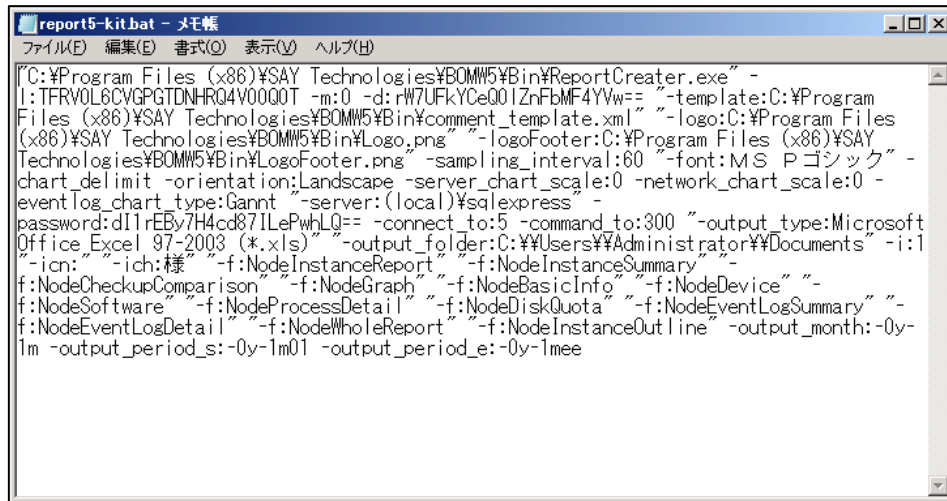


6. “出力設定の確認”画面が表示されます。[クリップボードへコピー]をクリックすると“コマンドライン実行用文字列”がクリップボードに格納されます。[キャンセル]ボタンでウィンドウを閉じます。



7. 「3.3. 連携キット用パッチファイルのコピーとパッチファイル内容変更」でコピーしたファイルのうち“report5-kit.bat”ファイルをテキストエディタで開きます。

8. “report5-kit.bat”ファイルの内容すべてをクリップボード内に格納されている“コマンドライン実行用文字列”を上書きし、変更します。



```

"C:\Program Files (x86)\SAY Technologies\BOMW5\Bin\ReportCreator.exe" -
l:TFRV0L6CVGPGTDNHRQ4Y00G0T -m:0 -d:rW7UfkYCeQ0IznFbMF4YVw= "-template:C:\Program
Files (x86)\SAY Technologies\BOMW5\Bin\comment_template.xml" "-logo:C:\Program Files
(x86)\SAY Technologies\BOMW5\Bin\Logo.png" "-logoFooter:C:\Program Files (x86)\SAY
Technologies\BOMW5\Bin\LogoFooter.png" "-sampling_interval:60" "-font:M.S. Pゴシック" -
chart_delimit -orientation:Landscape -server_chart_scale:0 -network_chart_scale:0 -
event_log_chart_type:Gantt -server:(local)\$sqlexpress -
password:d11rEBy7H4cd87ILePwhLQ== -connect_to:5 -command_to:300 "-output_type:Microsoft
Office Excel 97-2003 (*.xls)" "-output_folder:C:\Users\Administrator\Documents" -i:1
"-icon:" "-ich:様" "-f:NodeInstanceReport" "-f:NodeInstanceSummary" "-
f:NodeCheckupComparison" "-f:NodeGraph" "-f:NodeBasicInfo" "-f:NodeDevice" "-
f:NodeSoftware" "-f:NodeProcessDetail" "-f:NodeDiskQuota" "-f:NodeEventLogSummary" "-
f:NodeEventLogDetail" "-f:NodeWholeReport" "-f:NodeInstanceOutline" -output_month:-0y-
1m -output_period_s:-0y-1m01 -output_period_e:-0y-1mee
  
```

9. レポート出力期間を相対日付に変更します。

8.項で作成した“コマンドライン実行用文字列”ではレポート出力期間が、絶対日付の設定になっています。

レポート出力の定期的実行には、下記例のように出力期間を相対期間に変更する必要があります。

-output\_month:-0y-1m

-output\_period\_s:-0y-1m01

-output\_period\_e:-0y-1mee

この設定では、バッチを実行した日の前月の1日から31日までを出力期間としてレポートを作成します。

※コマンドライン実行用文字列は任意で変更することが可能です。変更方法の詳細については、

‘BOMW5.0-Report オプションユーザズマニュアル’の“第8章 付録”に記述されていますので、ご参照ください。

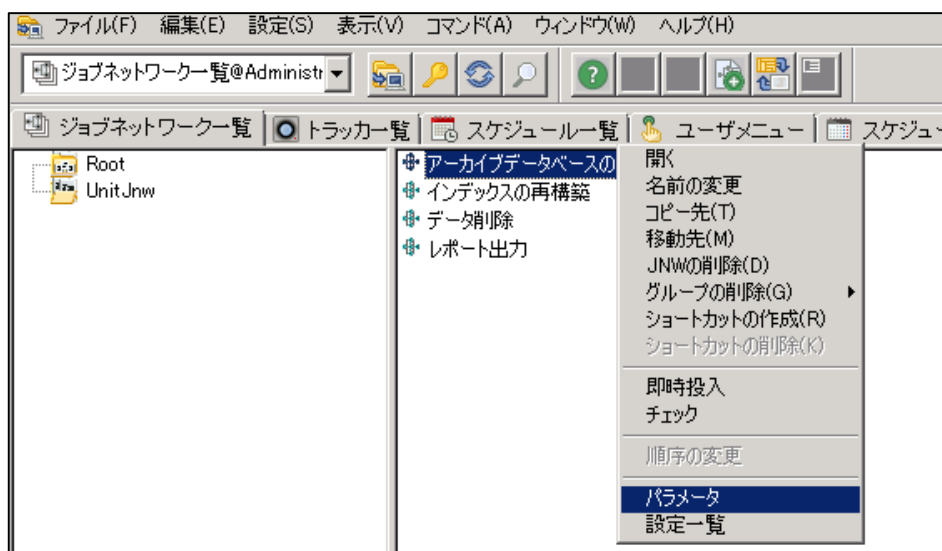
レポート出力するインスタンスが複数ある場合には、レポート作成ウィザードで必要なインスタンスを指定し、8項と同様、クリップボード内のコマンドライン実行文字列をすべて上書きしてください。

10. “上書き保存”を実行し、テキストエディタを終了します。

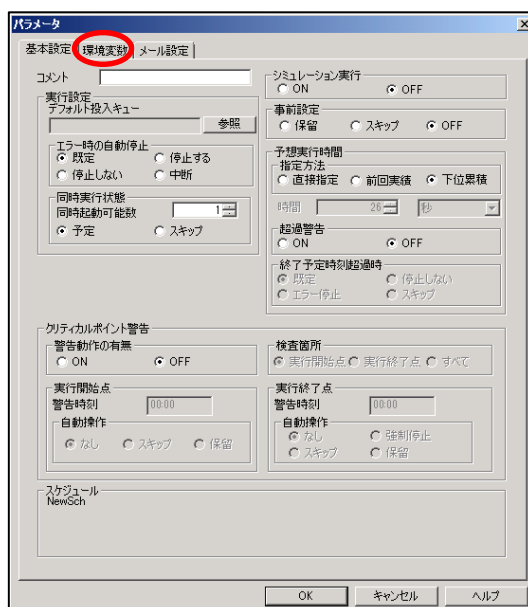
### 3.4. 連携キット用環境変数の設定

連携キットに必要な環境変数を Job Director に登録します

1. インポートした UnitJnw を選択後右側ペインに表示されているジョブネットワーク一覧の中の[アーカイブデータベースのバックアップ]を右クリックし、コンテキストメニューより[パラメータ]をクリックします。

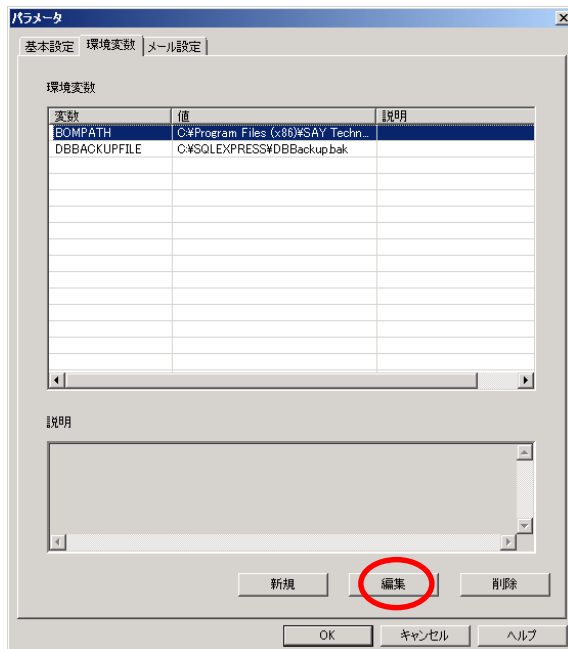


2. パラメータ画面が表示されますので、「環境変数」タブをクリックします。

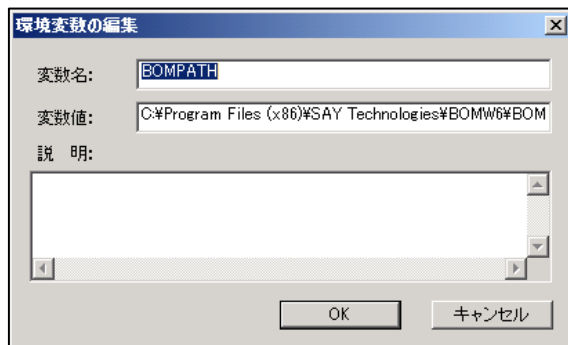


3. 「3.2.JNW のインポート」でインポートした環境変数が設定されています。変更する場合には編集する変数をクリックして、[編集]をクリックします。

※なお、環境変数を実際の動作環境に沿った値に変更しないと正常に動作しません。必ず環境変数が動作環境に合っているか確認してください。また、変更する場合は、変更終了した時点でジョブが有効となりますので、ジョブの実行時刻設定に従って動作します。ご注意ください。



4. 動作環境に合った環境変数を設定します。



変数名: BOMPATH                      変数値: “BOM アーカイブ DB 用コマンドのインストールパス”

例: “C:\Program Files\SAY Technologies\BOM5DB”(x86 の場合)

例: “C:\Program Files (x86)\SAY Technologies\BOM5DB”(x64 の場合)

変数名: DBBACKUPFILE              変数値: <任意のバックアップファイルへのフルパス>

例: “C:\SQLEXPRESS\DBBackup.bak”

5. 同様に、ジョブネットワーク、“インデックスの再構築”、“データ削除”、“レポート出力”も環境に応じてそれぞれ環境変数を変更します。

【連携キットの各変数の既定値】

- “インデックスの再構築”  
変数名: BOMPATH                      変数値: “BOM アーカイブ DB 用コマンドのインストールパス”
- “データ削除”  
変数名: BOMPATH                      変数値: “BOM アーカイブ DB 用コマンドのインストールパス”  
変数名: DeleteSpan                  変数値: <残しておきたい日数(既定値 365)>
- “レポート出力”  
変数名: BOMPATH                      変数値: “BOM アーカイブ DB 用コマンドのインストールパス”

## 4. 連携キットの使用方法

「3.連携キットのインストール」までの操作が完了した時点で、本連携キットのジョブネットワークは以下の既定値で実行されています。

機能	開始時刻	終了時刻
アーカイブデータベースのバックアップ	毎週日曜日の午前 0:00	バックアップ終了まで
インデックスの再構築	毎月 1 日の 3:00	再構築終了まで
データ削除	毎日 4:00	データ削除終了まで
レポート出力	毎月第 1 日目の 1:00	前月 1 日から末日まで

各既定値を変更する場合は、以降の手順で必要な値を変更してください。

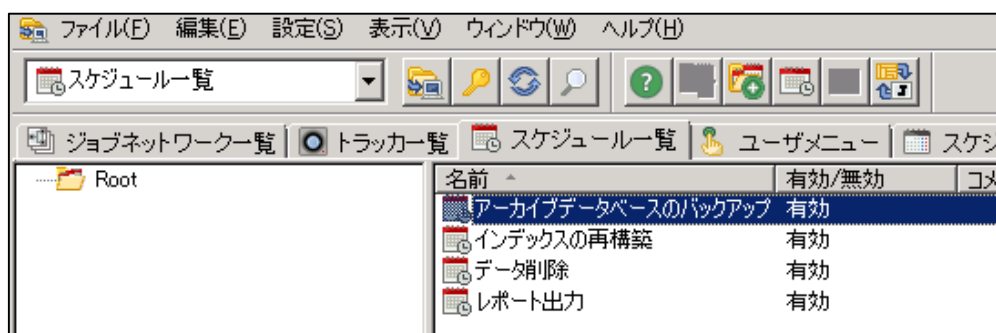
### 4.1. アーカイブデータベースのバックアップ

“アーカイブデータベースのバックアップ”ジョブネットワークはスケジュールされた間隔で自動実行されます。

※アーカイブデータベースのバックアップは 1 世代のバックアップ方法のみです。ご注意ください。

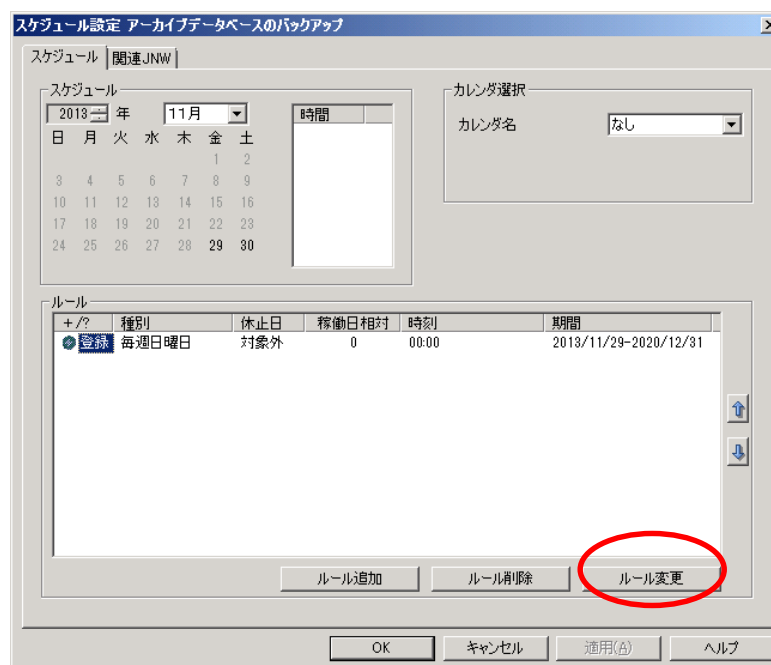
アーカイブデータベースのバックアップ時刻の変更を行います。

1. Job Director クライアント(CL/Win)を起動します。
2. 「スケジュール一覧」タブを開きます。“アーカイブデータベースのバックアップ”をダブルクリックします。

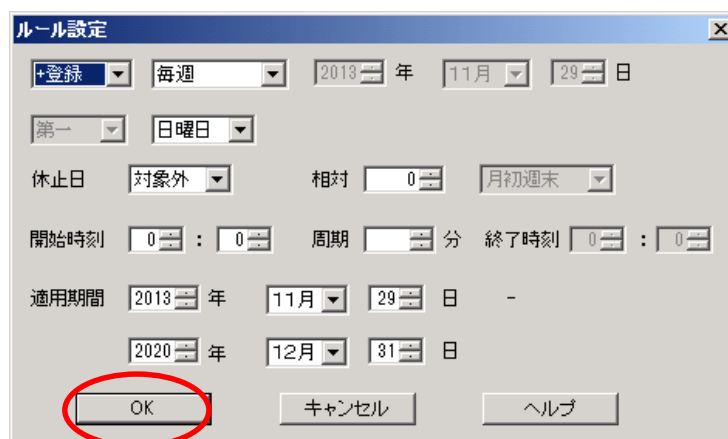




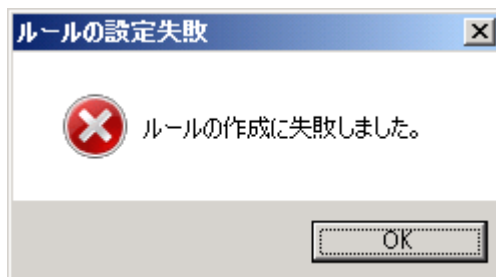
3. “スケジュール設定 アーカイブデータベースのバックアップ”画面の“ルール”リストに表示されている“登録”をクリックし、[ルール変更]をクリックします。



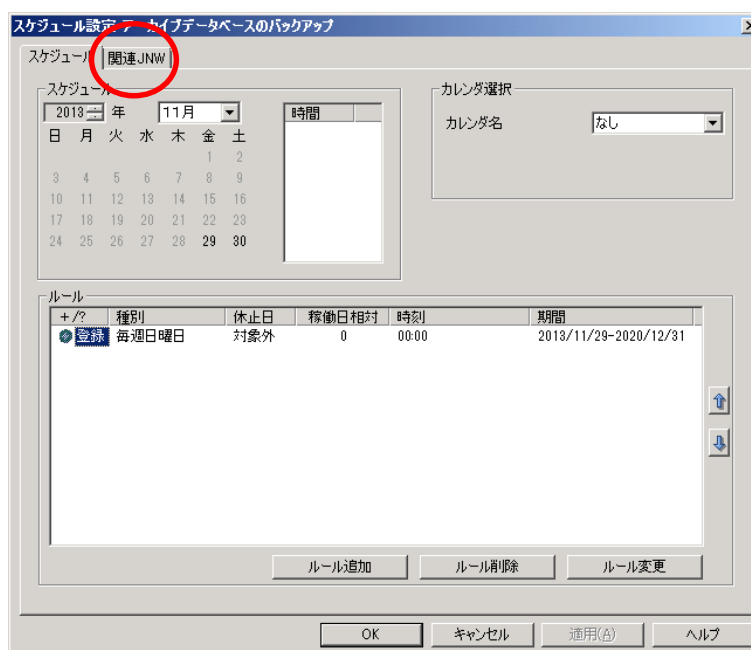
4. “ルール設定”画面で既定の設定が表示されます。アーカイブデータベースのバックアップ開始時刻既定値は毎週日曜日 AM0 時になっています。変更する場合は、この画面で変更し、[OK]をクリックします。



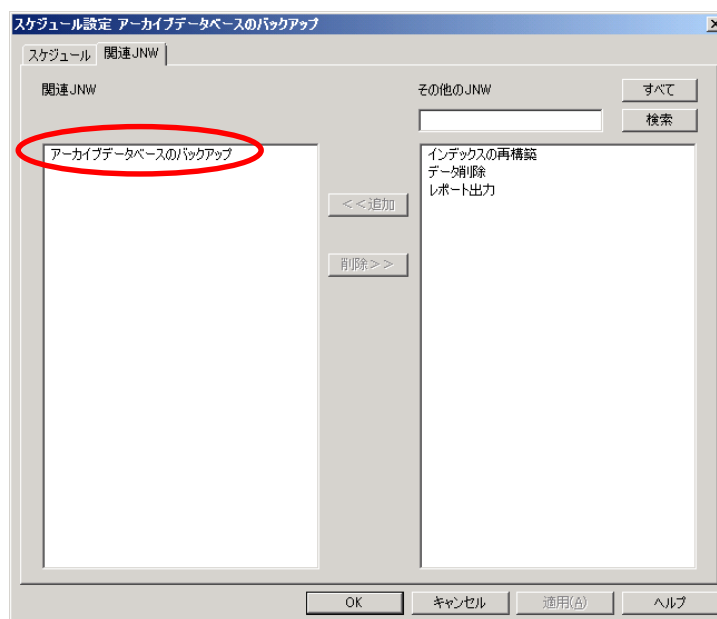
※なお、変更する場合、適用期間は必ず変更日以降に設定してください。もし、適用期間が変更日以降でなければ、[OK]をクリックした時に、エラーメッセージが出ます。



5. 3.の“スケジュール設定 アーカイブデータベースのバックアップ”画面に戻ります。「関連 JNW」タブをクリックします。



6. 「関連 JNW」に“アーカイブデータベースのバックアップ”が表示されているのを確認します。[OK]をクリックしてウィンドウを閉じます。

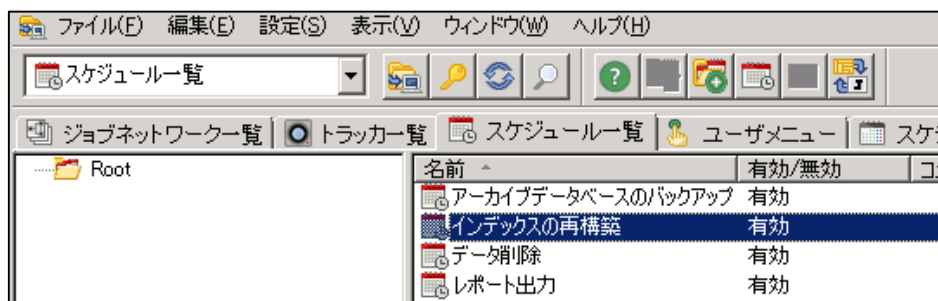


## 4.2. インデックスの再構築

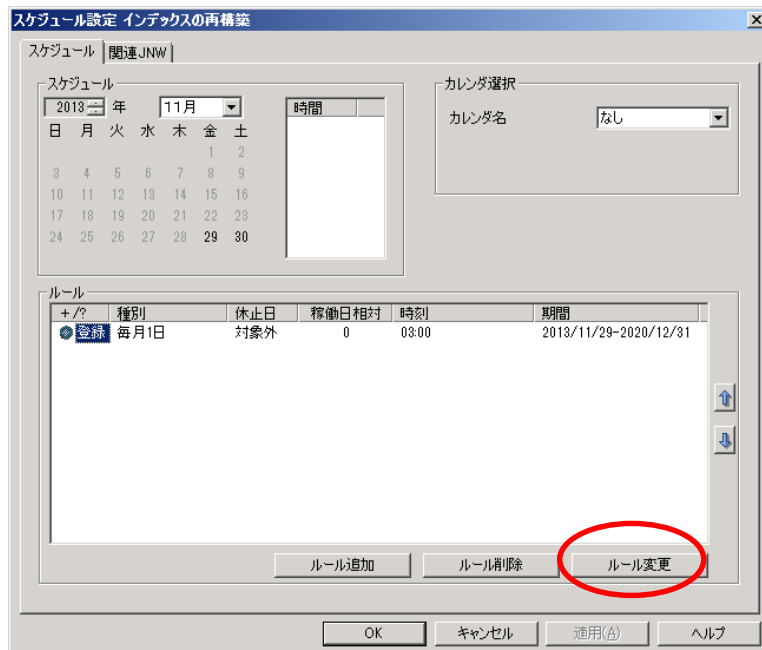
“インデックスの再構築”ジョブネットワークはスケジュールされた間隔でアーカイブサーバーのインデックスの再構築を自動実行されます。

アーカイブサーバーのインデックスの再構築の時刻変更を行います。

1. Job Director クライアント(CL/Win)を起動します。
2. 「スケジュール一覧」タブを開きます。“インデックスの再構築”をダブルクリックします。



3. “スケジュール設定 インデックスの再構築”画面の“ルール”リストに表示されている“登録”をクリックし、[ルール変更]をクリックします。



スケジュール設定 インデックスの再構築

スケジュール

2013 年 11月

日 月 火 水 木 金 土

1 2

3 4 5 6 7 8 9

10 11 12 13 14 15 16

17 18 19 20 21 22 23

24 25 26 27 28 29 30

時間

カレンダー選択

カレンダー名 なし

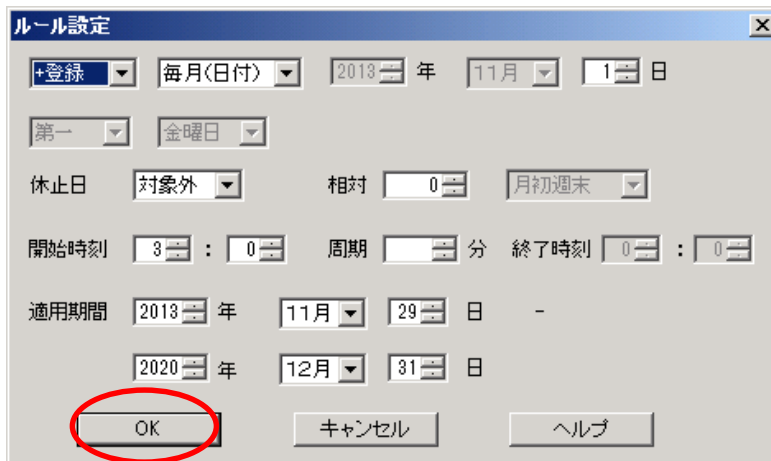
ルール

+	登録	種別	休止日	稼働日相対	時刻	期間
	登録	毎月1日	対象外	0	03:00	2013/11/29-2020/12/31

ルール追加 ルール削除 **ルール変更**

OK キャンセル 適用(A) ヘルプ

4. “ルール設定”画面で既定の設定が表示されます。インデックスの再構築開始時刻既定値は毎月 1 日 AM3 時になっています。変更する場合は、この画面で変更し、[OK]をクリックします。



ルール設定

+登録 毎月(日付) 2013 年 11月 1 日

第一 金曜日

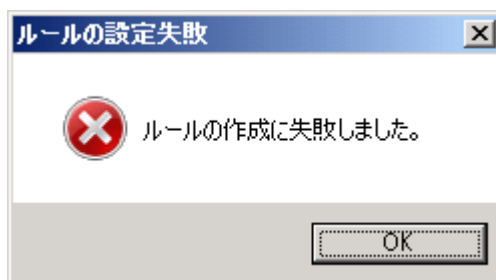
休止日 対象外 相対 0 月初週末

開始時刻 3 : 0 周期 分 終了時刻 0 : 0

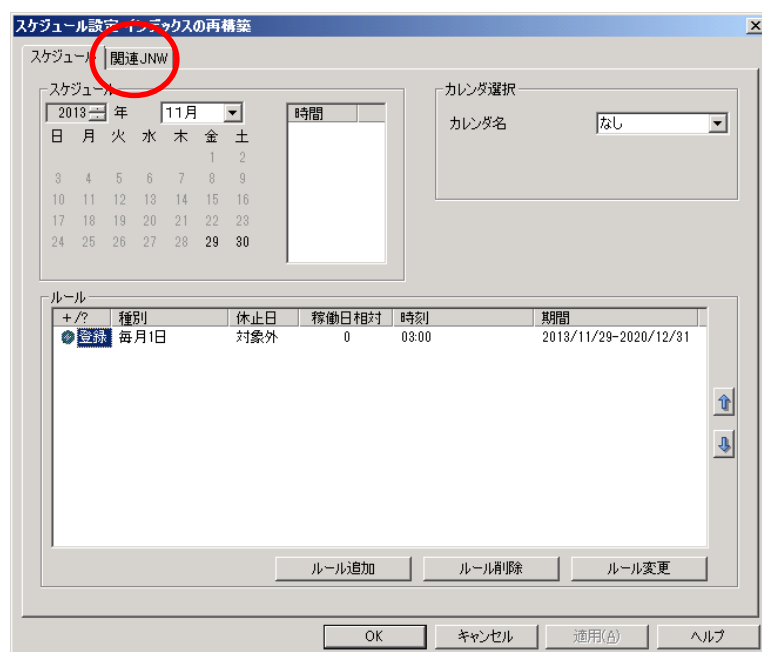
適用期間 2013 年 11月 29 日 - 2020 年 12月 31 日

**OK** キャンセル ヘルプ

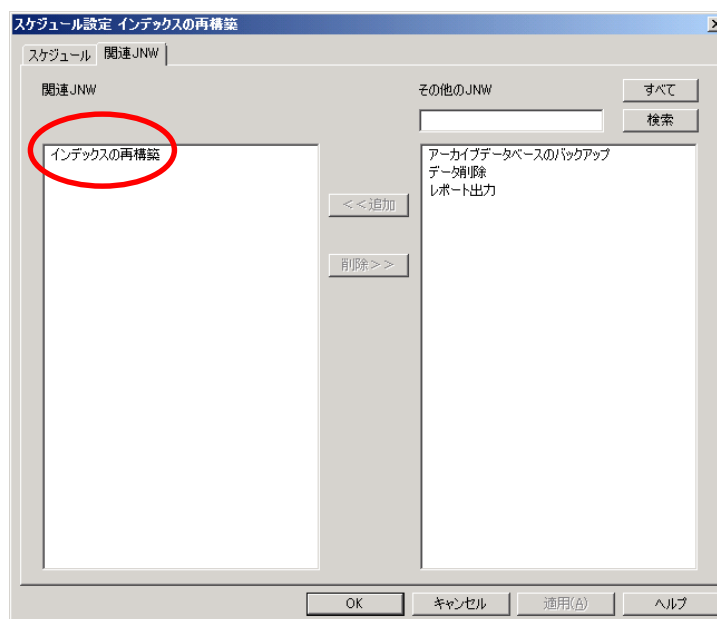
※なお、変更する場合、適用期間は必ず変更日以降に設定してください。もし、変更日以降でなければ、[OK]をクリックした時に、エラーメッセージが出ます。



5. 3.の“スケジュール設定 インデックスの再構築”画面に戻ります。「関連 JNW」タブをクリックします。



6. 「関連 JNW」に“インデックスの再構築”が表示されているのを確認します。[OK]をクリックしてウィンドウを閉じます。



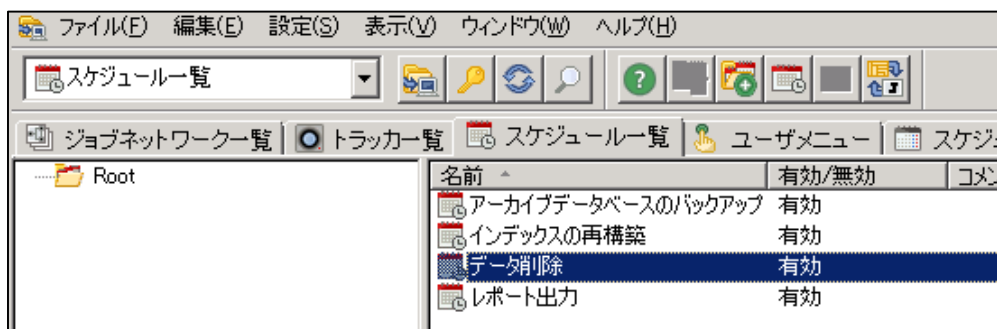
### 4.3. データ削除

“データ削除”ジョブネットワークはスケジュールされた間隔でアーカイブサーバーのデータを自動削除されます。

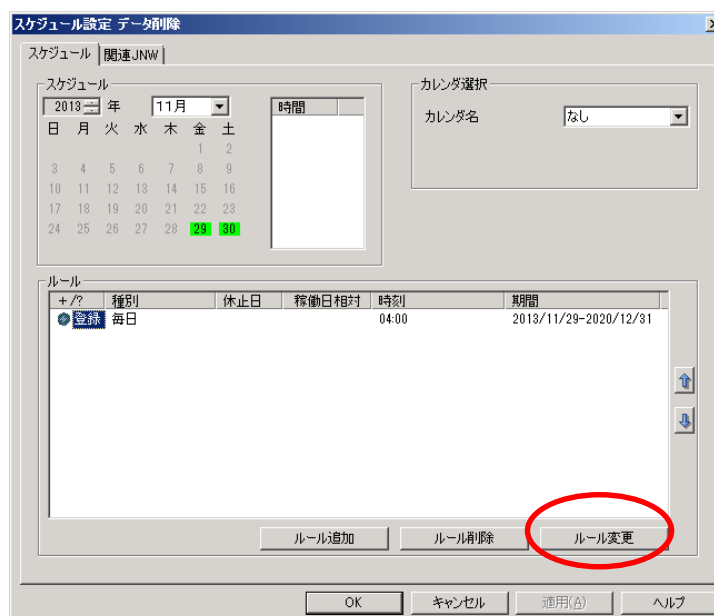
※本機能は、SQL Server Express Edition 上に BOM アーカイブサーバーを構築している場合に有効です。SQL Server Express Edition 以外の場合には必要ありません。アーカイブサーバーに SQL Server Express Edition 以外をご使用する場合には、後述のデータ削除機能の設定無効を参照し設定無効にしてください。

アーカイブサーバーのデータ削除時刻を変更します。

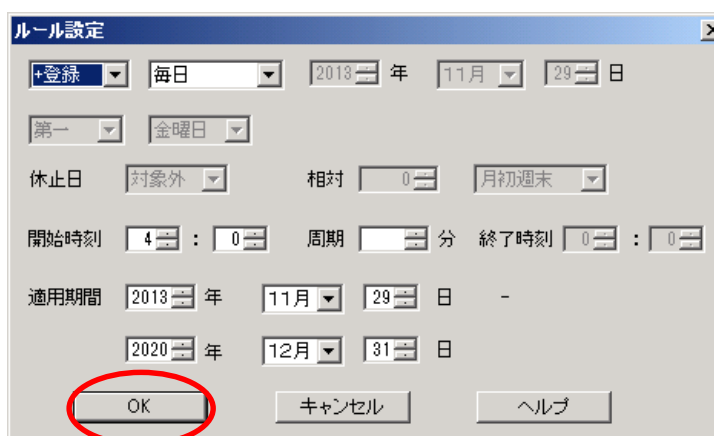
1. Job Director クライアント(CL/Win)を起動します。
2. 「スケジュール一覧」タブを開きます。“データ削除”をダブルクリックします。



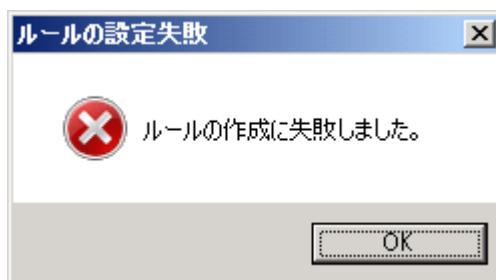
3. “スケジュール設定 データ削除”画面の“ルール”リストに表示されている“登録”をクリックし、[ルール変更]をクリックします。



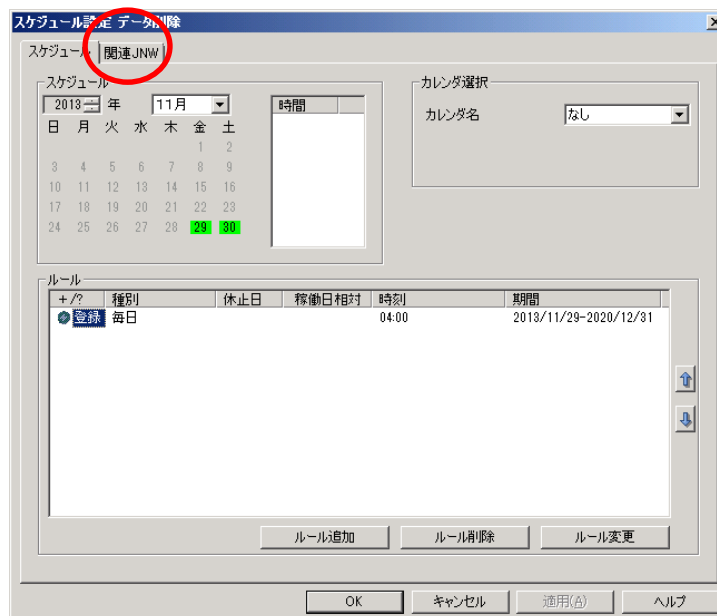
4. “ルール設定”画面で既定の設定が表示されます。データ削除開始時刻既定値は毎日 AM4 時になっています。変更する場合は、この画面で変更し、[OK]をクリックします。



※なお、変更する場合、適用期間は必ず変更日以降に設定してください。もし、変更日以降でなければ、[OK]をクリックした時に、エラーメッセージが出ます。

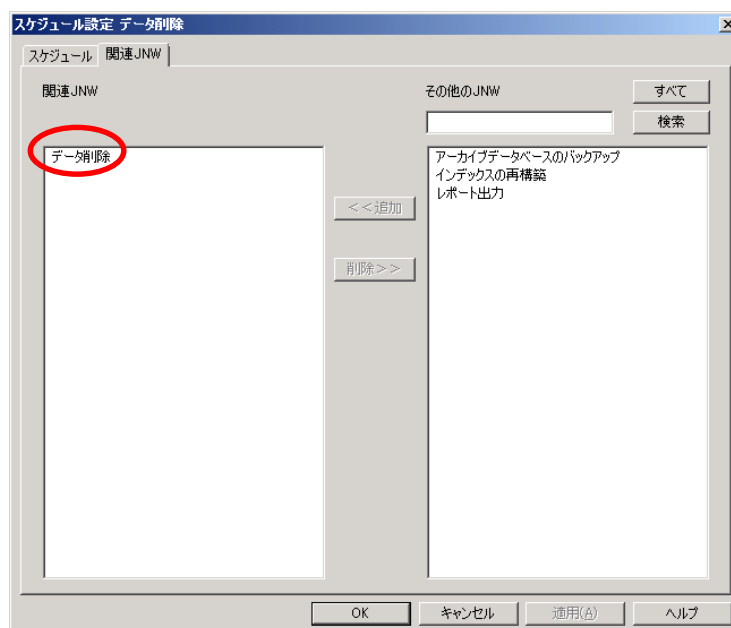


5. 3.の“スケジュール設定 データ削除”画面に戻ります。「関連 JNW」タブをクリックします。



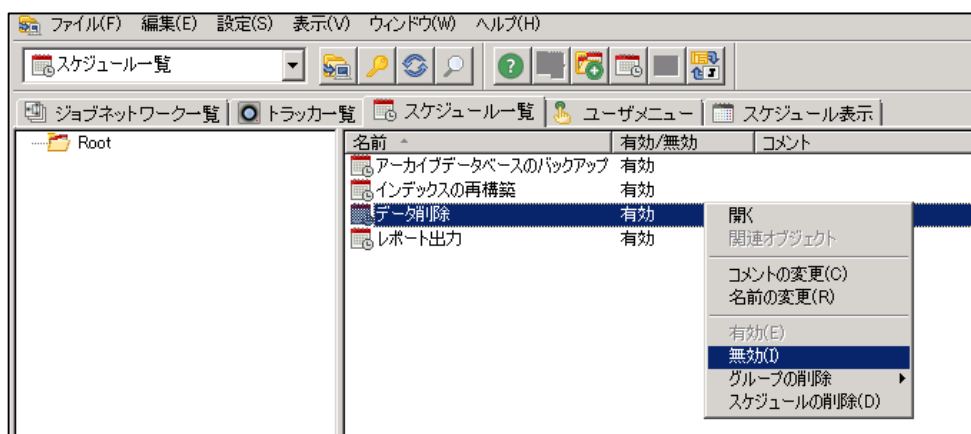


6. 「関連 JNW」に“データ削除”が表示されているのを確認します。[OK]をクリックしてウィンドウを閉じます。

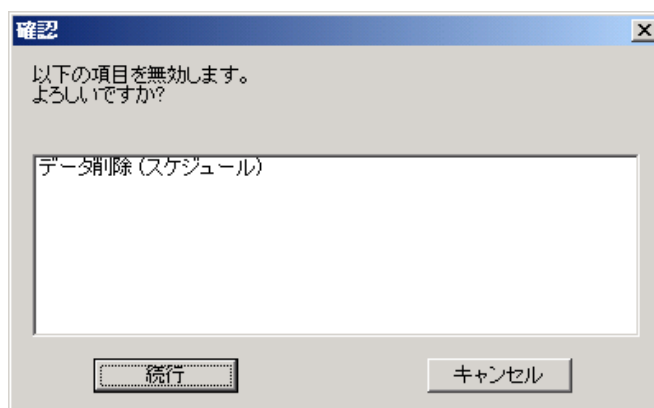


データ削除機能の設定を無効にします。

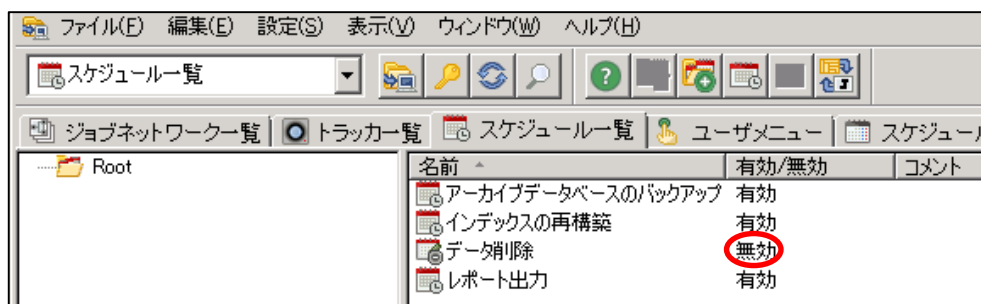
1. Job Director クライアント(CL/Win)を起動します。
2. 「スケジュール一覧」タブを開きます。“データ削除”を右クリックし、コンテキストメニューから、“無効”をクリックします。



3. “確認”ウィンドウで[続行]をクリックします。



4. “データ削除”設定が“無効”になったことを確認します。



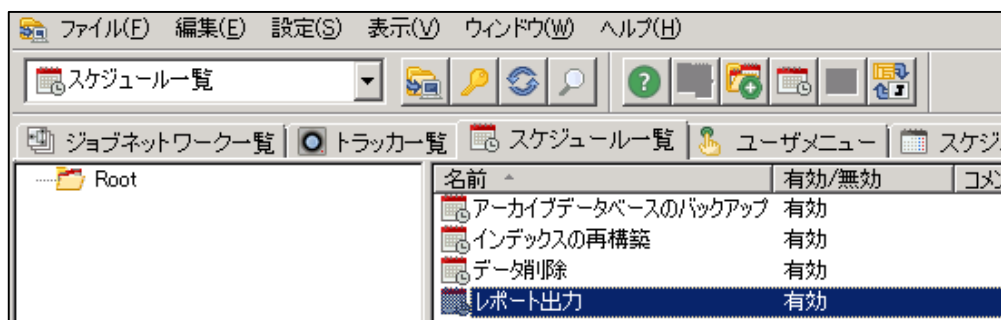
#### 4.4. レポート出力

“レポート出力”ジョブネットワークはスケジュールされた間隔でレポート出力を自動実行されます。

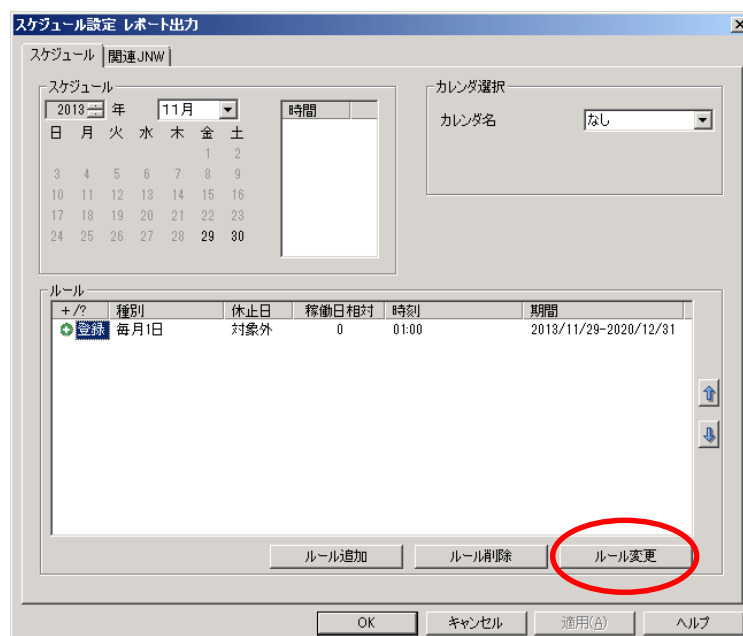
##### A) レポート出力時刻の変更

1. Job Director クライアント(CL/Win)を起動します。

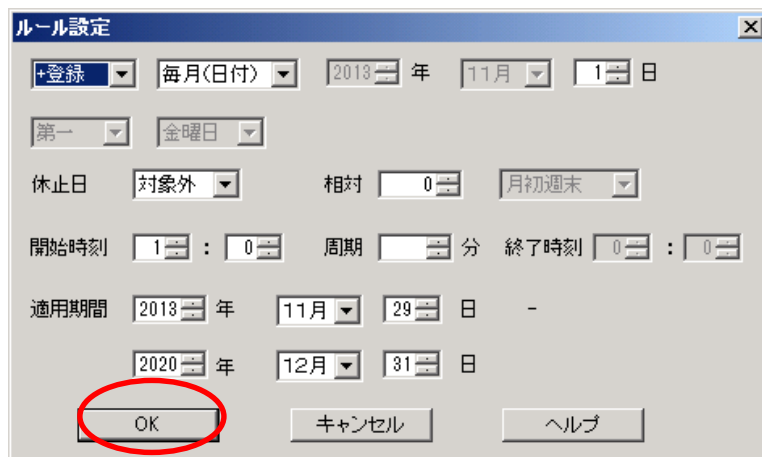
2. 「スケジュール一覧」タブを開きます。「レポート出力」をダブルクリックします。



3. “スケジュール設定 レポート出力”画面の“ルール”リストに表示されている“登録”をクリックし、[ルール変更]をクリックします。



4. “ルール設定”画面で既定の設定が表示されます。データ削除開始時刻既定値は毎月 1 日 AM1 時になっています。変更する場合は、この画面で変更し、[OK]をクリックします。



ルール設定

+登録 毎月(日付) 2013 年 11月 1 日

第一 金曜日

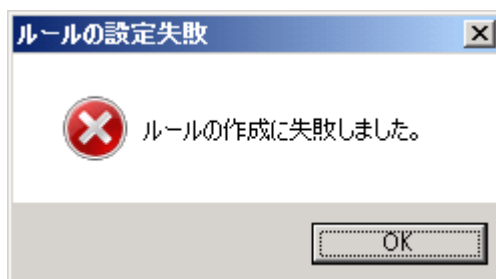
休止日 対象外 相対 0 月初週末

開始時刻 1 : 0 周期 分 終了時刻 0 : 0

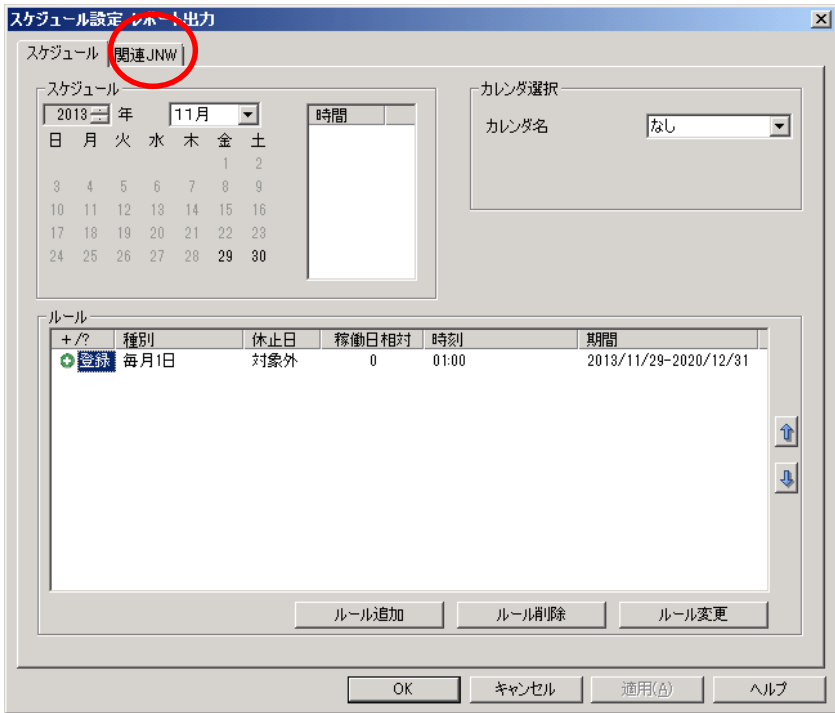
適用期間 2013 年 11月 29 日 - 2020 年 12月 31 日

OK キャンセル ヘルプ

※なお、変更する場合、適用期間は必ず変更日以降に設定してください。もし、変更日以降でなければ、[OK]をクリックした時に、エラーメッセージが出ます。



5. 3.の“スケジュール設定 レポート出力”画面に戻ります。「関連 JNW」タブをクリックします。



スケジュール設定 レポート出力

スケジュール 関連 JNW

スケジュール

2013 年 11月

時間

カレンダー選択

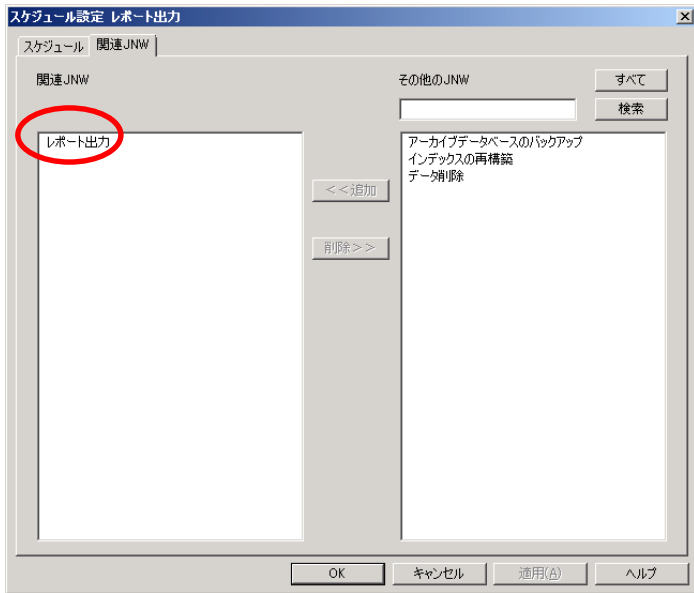
カレンダー名 なし

+/?	種別	休止日	稼働日相対	時刻	期間
登録	毎月1日	対象外	0	01:00	2013/11/29-2020/12/31

ルール追加 ルール削除 ルール変更

OK キャンセル 適用(A) ヘルプ

6. 「関連 JNW」に“レポート出力”が表示されているのを確認します。[OK]をクリックしてウィンドウを閉じます。



スケジュール設定 レポート出力

スケジュール 関連 JNW

関連 JNW

レポート出力

その他の JNW

すべて 検索

アーカイブデータベースのバックアップ  
インデックスの再構築  
データ削除

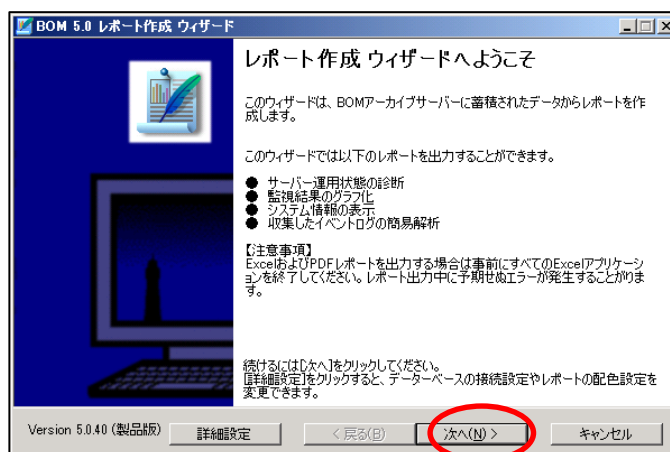
<<追加 削除>>

OK キャンセル 適用(A) ヘルプ

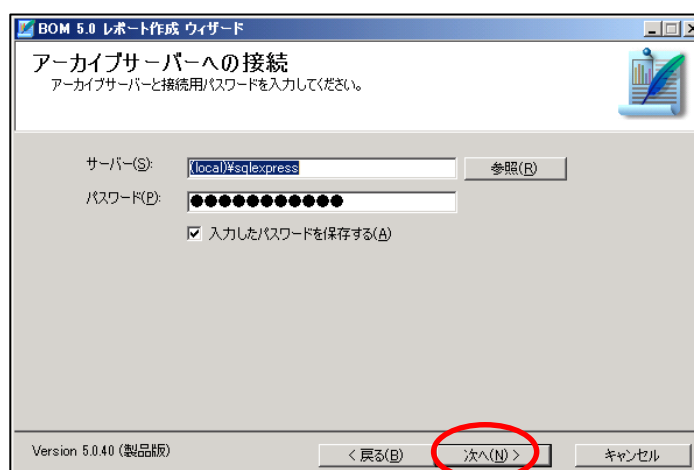
## B) レポート期間の設定

レポート出力を行うには、インスタンスの指定とレポート期間の設定が必要になります。インスタンスの指定とレポート期間の設定には レポート オプションに付属している“BOM 5.0 レポート作成 ウィザード”を使用してレポート出力に必要なコマンドを作成し、JNW で実行するバッチファイルに変更する内容を反映します。

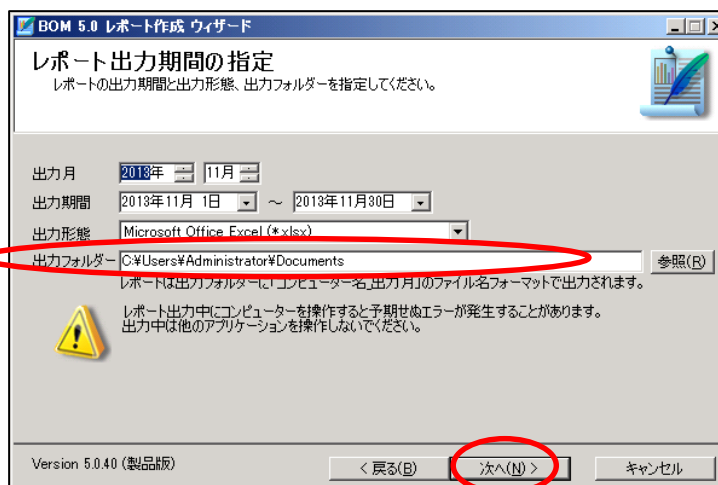
1. [スタート]-[すべてのプログラム]-[BOM]-[BOM for Windows 5.0]-[BOM 5.0 レポート作成 ウィザード]をクリックし、BOM 5.0 レポート作成 ウィザードを起動します。続いて、[次へ]をクリックします。



2. “アーカイブサーバーへの接続”画面が表示されますので、レポート作成するインスタンスのデータ蓄積されたアーカイブサーバーを指定し、パスワードを入力して[次へ]をクリックします。



3. “レポート出力期間の指定画面”が表示されますので、レポート出力期間、出力フォルダーを指定して、[次へ]をクリックします。出力フォルダーは図の例では、Administrator のマイドキュメントになっています。お客様の都合に合わせて任意のフォルダーへ変更下さい。



**レポート出力期間の指定**  
レポートの出力期間と出力形態、出力フォルダーを指定してください。

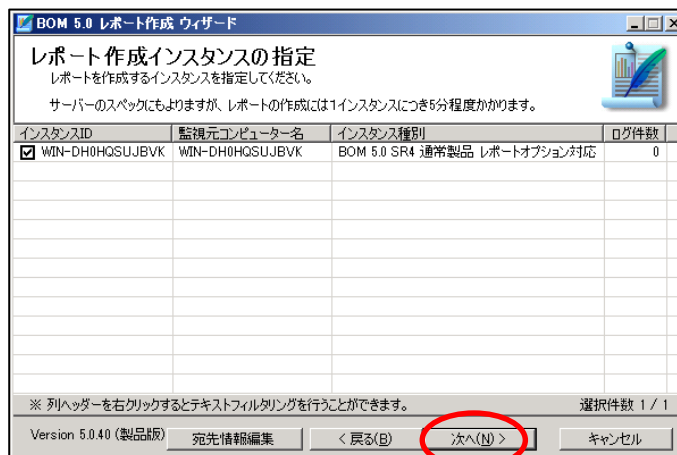
出力月: 2013年 11月  
出力期間: 2013年11月 1日 ~ 2013年11月30日  
出力形態: Microsoft Office Excel (\*.xlsx)  
出力フォルダー: C:\Users\Administrator\Documents

レポートは出力フォルダーに「コンピュータ名.出力月」のファイル名フォーマットで出力されます。  
レポート出力中にコンピュータを操作すると予期せぬエラーが発生することがあります。  
出力中は他のアプリケーションを操作しないでください。

Version 5.0.40 (製品版) < 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

※Job Director BOM6.0 アーカイブデータベース連携キットとの共存時には、それぞれ個別の出力フォルダーを設定してください。

4. “レポート作成インスタンスの指定”画面が表示されます。出力対象のインスタンス ID の先頭にあるチェックボックスにチェックをし、[次へ]をクリックします。



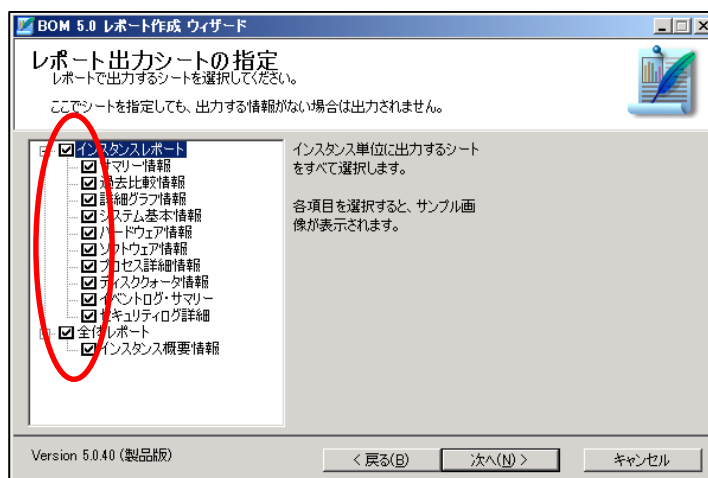
**レポート作成インスタンスの指定**  
レポートを作成するインスタンスを指定してください。  
サーバーのスペースにもよりますが、レポートの作成には1インスタンスにつき5分程度かかります。

インスタンスID	監視元コンピュータ名	インスタンス種別	ログ件数
<input checked="" type="checkbox"/> WIN-DH0HGSUJBVK	WIN-DH0HGSUJBVK	BOM 5.0 SR4 通常製品 レポートオプション対応	0

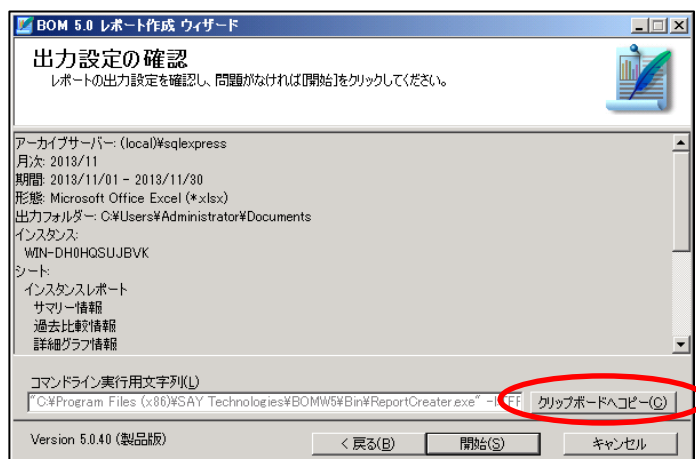
※ 列ヘッダーを右クリックするとテキストフィルタリングを行うことができます。 選択件数 1 / 1

Version 5.0.40 (製品版) 宛先情報編集 < 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

5. “レポート出力シートの指定”画面が表示されますので、出力するシートを指定して[次へ]をクリックします。

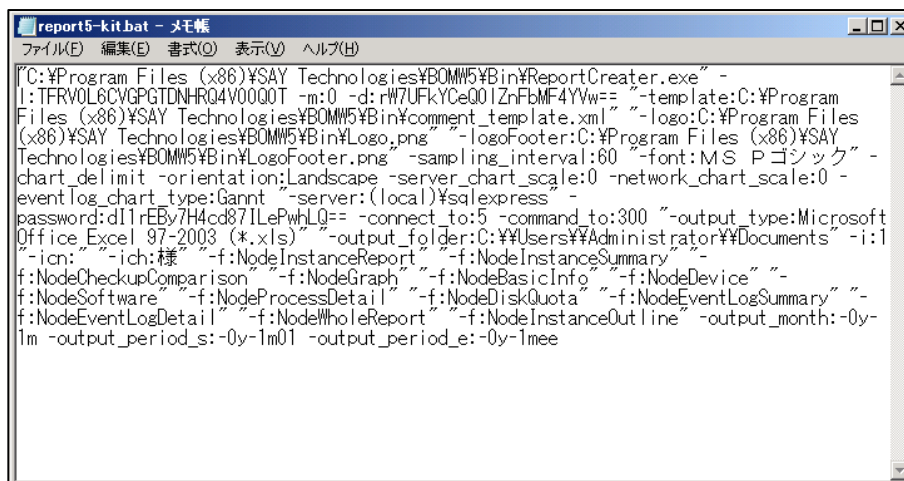


6. “出力設定の確認”画面が表示されます。[クリップボードへコピー]をクリックすると”コマンドライン実行用文字列”がクリップボードに格納されます。[キャンセル]ボタンでウィンドウを閉じます。





7. 「3.3. 連携キット用バッチファイルのコピーとバッチファイル内容変更」でコピーしたファイルのうち“report5-kit.bat”ファイルをテキストエディタで編集します。



```

report5-kit.bat
ファイル(F) 編集(E) 書式(O) 表示(V) ヘルプ(H)
"C:\Program Files (x86)\SAY Technologies\BOMW5\Bin\ReportCreator.exe" -
I:TFRVOL6CVGPGTDNHRQ4V00Q0T -m:0 -d:rW7UFkYCeQ0lZnFbMF4YVw== "-template:C:\Program
Files (x86)\SAY Technologies\BOMW5\Bin\comment_template.xml" "-logo:C:\Program Files
(x86)\SAY Technologies\BOMW5\Bin\Logo.png" "-logoFooter:C:\Program Files (x86)\SAY
Technologies\BOMW5\Bin\LogoFooter.png" "-sampling_interval:60 "-font:MS_Pゴシック" -
chart_delimit -orientation:Landscape -server_chart_scale:0 -network_chart_scale:0 -
eventlog_chart_type:Garnt "-server:(local)\sqlcxpress" -
password:d1lrEBY7H4cd87ILePwhLQ== -connect_to:5 -command_to:300 "-output_type:Microsoft
Office_Excel_97-2003 (*.xls)" "-output_folder:C:\Users\Administrator\Documents" -i:1
"-icon:" "-ich:様" "-f:NodeInstanceReport" "-f:NodeInstanceSummary" "-
f:NodeCheckupComparison" "-f:NodeGraph" "-f:NodeBasicInfo" "-f:NodeDevice" "-
f:NodeSoftware" "-f:NodeProcessDetail" "-f:NodeDiskQuota" "-f:NodeEventLogSummary" "-
f:NodeEventLogDetail" "-f:NodeWholeReport" "-f:NodeInstanceOutline" -output_month:-0y-
1m -output_period_s:-0y-1m01 -output_period_e:-0y-1mee
  
```

8. “report5-kit.bat”ファイル内容すべてをクリップボード内に格納されている”コマンドライン実行用文字列”で上書きし、変更します。

9. レポート出力期間を相対日付に変更します。

8.項で作成した「コマンドライン実行用文字列」ではレポート出力期間が、絶対日付の設定になっています。

レポート出力の定期的実行には、下記例のように出力期間を相対期間に変更する必要があります。

-output\_month:-0y-1m

-output\_period\_s:-0y-1m01

-output\_period\_e:-0y-1mee

この設定では、バッチを実行した日の前月の1日から31日までを出力期間としてレポートを作成します。

※コマンドライン実行用文字列は任意で変更することが可能です。変更方法の詳細については、

‘BOMW5.0-Report オプションユーザーズマニュアル’の“第8章付録”に記述されていますので、ご参照ください。

レポート出力するインスタンスが複数ある場合には、レポート作成ウィザードで必要なインスタンスを指定し、8項と同様、クリップボード内のコマンドライン実行文字列をすべて上書きしてください。

10. テキストエディタで“上書き保存”を実行し、テキストエディタを終了します。

## 5. Job Director BOM6.0 アーカイブデータベース連携キットとの共存時の注意事項

Job Director に登録するジョブネットワークの名称は一意のものであり、同一の名称のジョブネットワークを複数登録できません。

Job Director BOM5.0 アーカイブサーバー連携キットと Job Director BOM6.0 アーカイブデータベース連携キットを、同一のコンピュータ上で動作する Job Director で同時に運用する場合、それぞれの JNW に含まれるジョブネットワーク名が同一のため、以下の手順で最初にインポートした JNW に含まれるジョブネットワークの名称変更を行ってください。

1. BOM5.0 アーカイブサーバー連携キットに含まれる JNW をインポートする
2. UnitJnw にインポートされたジョブネットワーク 4 つを、名称変更する
3. BOM6.0 アーカイブデータベース連携キットに含まれる JNW をインポートする

※ 名称変更を行わないで 2 つの JNW をインポートした場合、あとからインポートを行った JNW の登録内容で上書きされます。

※ BOM5.0 アーカイブサーバー連携キットと BOM6.0 アーカイブデータベース連携キットのスケジュールは、共通の設定として使用され、それぞれのキットに含まれるジョブネットワークは同一の時間に実行されます。

---

Job Director/BOM5 アーカイブサーバー連携キット

2014 年 1 月 21 日                      初版  
著者        セイ・テクノロジーズ株式会社  
発行者     セイ・テクノロジーズ株式会社  
発行        セイ・テクノロジーズ株式会社  
バージョン Ver.1.0.0.0

Copyright © 2014 SAY Technologies, Inc. All rights reserved.

---